



大山 平一郎 Heiichiro Ohyama [ヴァイオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴァイオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシェル・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴァイオラ奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞(芸術祭優秀賞)を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project (米国サンタ・バーバラ) 音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティストリック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。

The Lobero Theatre Chamber Music Project (米国サンタ・バーバラ) 音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティストリック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。



水野優也 Yuya Mizuno 【チェロ】

第 89 回日本音楽コンクールチェロ部門第 1 位及び岩谷賞(聴衆賞)、黒柳賞、徳永賞、全部 門を通じて最も印象的な演奏に対し贈られる増沢賞を受賞。第 13 回東京音楽コンクール弦 楽部門第 1 位及び聴衆賞、第 31 回青山音楽賞新人賞など多数受賞。江副記念リクルート財 団、ロームミュージックファンデーション、各奨学生。現在、リスト音楽院にてミクローシュ・ペレーニ氏に師事。シヤネル・ビッグマリオン・デイズ 2020/2021 参加アーティスト。

ジャパン・ナショナル・オーケストラ メンバー。

©□Taira Tairadate

◇今後の公演のお知らせ◇

【DUO PROJECT 2022 コンサート】

2022年9月4日(日) 17:00 開演 Hakuju Hall

(字幕実況解説付きリハーサル: 7月26日(火) 19:00 開演

9月1日(木) 19:00 開演 中目黒 GT プラザホール)

【出演者】 對馬佳祐、ジャンミッシェル・キム、竹澤恭子、上田晴子

【詳細はこちらをご覧ください。】

公開リハーサル販売ページ ⇒



コンサート販売ページ ⇒





Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2022-2023 Vol.1

めぐろパーシモンホール 小ホール

2022年7月1日（金）開演 19:00

◆クロード・ドビュッシー 弦楽四重奏曲 ト短調 作品 10

I. Animé et très décidé II. Assez vif et bien rythme III. Andantino doucement expressif IV. Très modéré

福田麻子(Vn.) 前田妃奈(Vn.) 中村詩子(Va.) 水野優也(Vc.)

◆フェリックス・メンデルスゾーン 弦楽五重奏曲第2番 変ロ長調 作品 87

I. Allegro vivace II. Andante scherzando III. Adagio e lento IV. Allegro molto vivace

前田妃奈(Vn.) 福田麻子(Vn.) 中村詩子(Va.) 大山平一郎(Va.) 水野優也(Vc.)

◆お客様とのダイアログ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の方法か

右のQRコードから質問を送信してください。

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「1152085」を入力



[主催] 一般社団法人 Music Dialogue

[共催] 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団

[協力] 日本音楽財団（日本財団助成事業）

[助成] 芸術文化振興基金



芸術文化振興基金

作品解説

◆クロード・ドビュッシー（1862～1918）：弦楽四重奏曲 ト短調 作品 10

音楽評論家や愛好家のあいだでドビュッシーが注目されるようになったのは1902年、40歳になる頃だった。学生時代から自らの師に「理論なんてない」「快いことが規則なんです」と口答えしていたドビュッシーによる伝統に反抗した音楽は、そう簡単に理解されなかったのだ。30歳頃に書かれたこの弦楽四重奏曲からも、同時期の《牧神の午後への前奏曲》、後の《海》といったドビュッシーの傑作を想起させる斬新な響きが聴こえてくる。現在では室内楽におけるドビュッシーの代表作とされるが、作曲当時は彼の才能を買っていた先輩作曲家ショーンソンさえ顔をしかめた。

自由な音使いでハーモニーの可能性を切り拓いてはいるが、形式はあくまで伝統的な4楽章制——ソナタ形式によるドラマティックな第1楽章、おどけたスケルツォによる第2楽章、どこか郷愁を誘う抒情的な第3楽章、クライマックスまでじっくりと盛り上げてゆく第4楽章——というのも面白い。加えて第1楽章冒頭の旋律は「循環主題（セザール・フランクとその弟子が多用した、楽章間を超えてひとつの旋律を繰り返し用いる手法）」となって、徐々に姿を変えながら全楽章に繰り返し登場。作品全体を堅牢にまとめ上げていく。

（解説：小室 敬幸）

◆メンデルスゾーン（1809–1847）：弦楽五重奏曲第2番 変ロ長調 作品 87

メンデルスゾーンは疲れていた。宮廷と音楽院での務めや相次ぐ演奏旅行は、創作に集中したい芸術家にとって、すでに大きな負担となっていた。1845年にお役所仕事から解放された彼はその年の夏、保養地ゾーデンで弦楽五重奏曲第2番を作曲する。

すでに弦楽四重奏曲5曲を完成させていた作曲家が五重奏曲に取り組むのは、17歳の頃に第1番を作曲して以来であった。円熟した書法を示す充実作であるが、作曲者の存命中に楽譜が出版されることはなかった。

第1楽章は、冒頭の駆け上がってゆく主要主題とうねるような副次主題を持つソナタ形式楽章。

第2楽章はスケルツォで、単純な形式ながらも、細かな工夫によってつねに新鮮に響く。

第3楽章は悲痛で暗鬱なアダージョ。終結部は音楽が長調へと移ってゆく霧の晴れるような情景を思わせ、作曲家の心象を反映しているようにも感じられる。

第4楽章は、冒頭の澆刺とした主題が幾度も現れるロンド・ソナタ形式の楽章。各楽器の音の動きが拮抗するように、複雑に掛け合わされる。

音楽を彩るトレモロやピチカートといった技法、そして激しい感情の表出は、作曲家がこれまで培ってきたものと、2年後に早世しなければ先々到達し得たであろう境地を示している。

（解説：山崎 圭資）

演奏者プロフィール

コメントの追加 [山崎 圭資1]:



福田麻子 Asako Fukuda 【ヴァイオリン】

東京音楽大学、同大学院修士課程を首席で卒業。在学中特別特待奨学生。現在同大学院博士後期課程に在学中。第19回東京音楽コンクール弦楽器部門第1位。第87回日本音楽コンクール第3位、第18回東京音楽大学コンクール第1位、第16回クロスチャーシェンター国際ヴァイオリンコンクール(ドイツ)第2位及びバッハ賞、他受賞多数。NHK-FM「リサイタル・パッシオ」に出演。2022年度RMF奨学生。これまでに、小栗まち絵、大谷康子、原田幸一郎、藤原浜雄、玉井菜採の各氏に師事。 ©□井村重人



前田妃奈 Hina Maeda 【ヴァイオリン】

2019年第88回日本音楽コンクールバイオリン部門第2位及び岩谷賞(聴衆賞)。2020年第18回東京音楽コンクール弦楽器部門第1位及び聴衆賞。その他、全日本学生音楽コンクール、クロスチャーシェンター国際バイオリンコンクール(ドイツ)、霧島国際音楽祭賞など、国内外のコンクール、オーディション、マスタークラスで多数の賞を受賞。11歳より関西の主要オーケストラ他とソリストとして共演するなど、関東、関西にて多様な形式の演奏会に出演。シャネル・ピグマリオン・デイズ 2020/2021 参加アーティスト。公益財団法人江副記念リクルート財団第48回奨学生。現在、東京音楽大学に特別特待奨学生として在学し、小栗まち絵、原田幸一郎、神尾真由子の各氏に師事。 ©□Taira Tairadate



中村詩子 Shiiko Nakamura 【ヴィオラ】

3歳よりヴァイオリンをはじめ13歳でヴィオラに転向。東京藝術大学卒業。学部3年次にオーディションに合格し、現在東京シティ・フィル所属。これまでに小澤国際室内楽アカデミーin奥志賀に参加。学内成績優秀者として第45回藝大室内楽定期演奏会出演。チェルカトール弦楽四重奏団メンバー。第8回秋吉台音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位。サントリーホール室内楽アカデミー第5期フェロー。これまでにヴァイオリンを宮崎ありさ、ヴィオラを川崎和憲、恵谷真紀子、大島亮の各氏に師事。